

1961年4月群馬県生まれ。大学時代はフェンシング競技に打ち込み、全日本フェンシング選手権大会男子フルーレ個人で優勝。卒業後は家業である運送会社を継いだのち、1995年にNEXUS株式会社を設立。モータースポーツ「D'station Racing」のチームオーナーを務めつつ、レーシングドライバーとして活躍している。



発行元：オルト株式会社 住所：東京都渋谷区渋谷1-19-5 渋谷美竹ビル 3F URL：<https://www.ortho-corp.jp> お問い合わせ 電話：0120-444-110 メール：info@orthobios.com 発行日：2020年2月28日

アイムプロテインは挑戦者のためのプロテイン



星野 敏 氏

Satoshi Hoshino

アイムプロテインの愛飲者に健康の秘訣を伺うこのコーナー。今回のゲストは、経営者として年商3000億円を超えるグループ企業を率いる一方で、レーシングドライバーとして世界最高峰の自動車レースのひとつである「ル・マン24時間レース」に出場するなど、アスリートとしての顔も持つ星野敏氏。経営者兼アスリートとして、2つの舞台で挑戦を続ける星野氏に、アイムプロテインの魅力や今後の目標について伺いました。

まずは星野さんが「アイムプロテイン」を飲み始めたきっかけからお聞かせください。

きっかけとなったのは、2018年の末に、翌年の「ル・マン24時間」へ初参戦することが決まったことですね。

私にとって「ル・マン24時間」は特別なレース。モータースポーツを始めた頃からの憧れであり、目標の舞台でした。その舞台に立つために、ここ数年ハードなトレーニングを重ね、必要な体力や集中力を養ってきましたが、「ル・マン24時間」は今まで戦ってきたレースとは全くの別物。3人のドライバーが交代で24時間走り続ける過酷なレースですから、「これまでのトレーニングでは足りない」と感じて、何か良い方法がないか日々模索していたのです。「アイムプロテイン」に出会ったのは、そんな時でした。

来ました。というのも、今まではトレーニングの後の身体作りのために普通のプロテインを飲んでいましたが、それで本当に充分なのか、もっと質の高いものはないものかと真剣に考えていたからです。

特に必要だと思っていたのは、持久力の向上とストレス耐性です。長丁場のレースを戦うには、筋力よりも持久力と耐性が必要になります。そんな時に、筋力アップだけでなく、疲労回復や免疫力の向上にも効果を期待できる「アイムプロテイン」の存在を知り、「私の求めているものは、このプロテインではないかと直感したのです。」

「アイムプロテイン」を愛飲されて1年以上経つと伺いましたが、効果はいかがでしょうか？より質の高いトレーニングができるようになりましたか？

一番効果を感じているのは、持久力ですね。私は毎朝1時間エアロ



★2
D'station Racing
2017年に設立されたNEXUS株式会社の自社レーシングチーム。星野氏がチームオーナー兼ドライバーを務めている。総監督は元プロ野球選手の木佐浩氏。



★1
NEXUS株式会社
星野氏が代表を務める企業。アミューズメント施設のほか、ホテルや温泉など、グループで幅広い施設を運営する。2014年には「群馬県優良企業ランキング第1位」を獲得。

バイクのトレーニングをしているのですが、それまでは最高でも700kcal/hの消費カロリーでしたが、アイムプロテインを飲むようになってから2ヶ月ほどで800kcal/hまで出せるようになりました（編集部注：一般的なエアロバイクによる消費カロリーは低負荷で約300〜400kcal/h、高負荷で約400〜500kcal/h程度）。

持久力が向上したことで、今までよりも早いスピードで漕げるようになり、質の高いトレーニングにつながっています。パフォーマンスの向上に伴って集中力も高まっているようで、1時間があつという間に感じますね。何よりも嬉しいのは、肉体的な成長が感じられること。私は現在58歳ですが、この年齢でもまだ肉体的に成長できる余地があつたことに素直に驚いています。

「アイムプロテイン」をレースにも活用されていらっしゃるのでしょうか？

——星野さんは、現役のレーサーであると同時に年商3000億円を超える企業グループの創業オーナーでもあります。この会報誌を読まれている方にも経営者の方が多いいらっしゃると思いますので、経営に関するお話も少し伺いできればと思います。

星野さんが経営者として大切にされていることは何でしょうか？

仲間を信頼し、仕事を任せることです。私は学生時代にオリンピック出場を狙うほどフェンシングに熱中していましたが、いま私の会社を支えてくれている経営幹部の多くは、その時からの仲間です。

私は地方の小さな運送会社の長男に生まれ、トラックや車に囲まれた環境で育ちました。学校を出て父の会社で働くようになってからは、フェンシングの仲間や後輩が次々とその会社に入社して私を支えてくれたのです。34歳の時に今のエンターテインメント事業を起しましたが、それを支えてくれたのもその同僚や後輩たちになります。

——ここ数年は新卒社員の入社定式を富士スピードウェイのサーキットを借り切って行われていますね。

58歳という年齢でも

肉体的な成長を感じられる

そのことに驚いています

約100名の新卒内定者全員をレーシングカーやスーパーカーに乗せて、もてなされているとか。そのエピソードを伺って、そこに星野さんの経営者としての特別な考えがあるのではないかと思いました。どういったお考えがあるのでしょうか？

エンターテインメント企業として、エンターテインメントの頂点であるモータースポーツを体験して欲しいからですね。エンターテインメントの頂点を体験することで、私どもの会社に入社することへの誇りやワクワク感を持つて欲しいのです。そしてまた、未来へ向かって挑戦するチャレンジ精神を養って欲しいと願っていることでもあります。

——星野さんはアスリートとしてだけでなく、経営者としてもチャレンジ精神を大切にされているということですね。それでは最後に、会報誌を読まれている方へのメッセージと今後の抱負をお聞かせください。

私は「アイムプロテイン」を、「挑戦する人のためのプロテイン」だと捉えています。スポーツであれ、ビジネスであれ、夢や目標の実現に向かって前向きに取り組んでいる方が飲むべきものだ、と。私はチャレンジすることに年齢は関係ないと思っています。というのも、私自身、モーター

スポーツを始めたのが48歳と非常に遅く、レースに参戦するようになったのも50歳を超えてからなのです。アスリートとしては非常に高齢から始めた挑戦でしたが、自分でも驚くほど成長することができ、遂には夢だった「ル・マン24時間」にも出場することができました。私と同じように、さらなる高みや成長を目指して挑戦している方にこそ、ぜひ「アイムプロテイン」を飲み続けて頂きたいですね。

私は現在58歳ですが、もうすぐ節目である60歳という年齢を迎えます。しかし、経営者としても、アスリートとしても、本当の成長はまだこれからだと思っています。レースに関しては「ル・マン24時間」に限らず、国内外のハイレベルなレースへの挑戦が続けます。速さは、お金だけでは買えないもの。1秒でも早くゴールできるように、トレーニングも含めて地道な努力を積み重ねて、さらに成長していきたいですね。また、経営者としても、企業のさらなる成長を目指します。具体的には、2025年度までに年商5000億円を実現したい。「ル・マン24時間」への挑戦と、年商5000億円企業になるための挑戦。この2つの目標に向かって、「アイムプロテイン」で心身のコンディションを最高の状態に整えながら、これからも走り続けていきたいと思っています。

EDITOR'S NOTE 編集後記

星野様はとても紳士的で温厚な方。初対面の相手に対しても、誰に対しても決して圧迫感を与えません。それも、努めてそされていらっしゃるというのではなく、飾り気なく、むしろ口数少なく、ちょっとはかんでいらっしゃるようなソフトな語り口。ニコニコと柔和な笑顔で一言一言お話をされるだけで、聞き手をいっぺんに惹きつける魅力があります。経営者兼アスリートとして、2つの目標に果敢に挑戦し続ける星野様。これからの活躍を、アイムプロテインチーム一同、心から願っております。

Experience編集部



D'station Racingは、現在「2019-2020年アジア・ル・マン・シリーズ」に参戦中。ドライバーは、藤井誠暢氏（左）、星野敏氏（中央）、ロス・ガン氏（右）。